

実態調査事例①30年前の金属屋根について

金属屋根腐食・野地板(軒先・ケラバ・棟)劣化・釘腐食

あまり知られていない屋根の実態に迫ります。

30年前の金属屋根について、具体的な写真をもとに報告します。



↑上写真は、築30年、金属屋根(心木あり瓦棒葺)の屋根解体現場です。場所は愛知県です。下屋・西面です。もともと、青色の塗装でしたが、赤色に再塗装されていました。屋根に上がると野地板が劣化していて、フカフカで踏み抜けそうでした。



←左写真は、瓦棒のキャップを剥がした所です。軒先部(溝板立ち上がり部、キャップ裏面、棧鼻)がポロボロに腐食していました。10~15cmの幅で、広範囲に腐食していました。



→右写真は、心木の棟側です。軒先部ほどには腐朽していませんが、釘廻りは劣化がひどく、穴が開いています。釘も全体に錆びています。心木全体に浸水痕が見られます。釘頭が朽ちているものもありました。



←左写真は、溝板を剥がした状態です。下葺き材は塩ビシートでした。熱劣化により収縮して、軒先部にシートがない状態でした。軒先の野地板は腐朽が激しく層状剥離していました。

やまほん

## 余レポート No.36

余株式会社 神清



←左写真は、溝板の裏面です。部分的に錆びている状態です。表面は全体的に錆びが発生していますが、裏面は比較的進行していませんでした。

→右写真は、溝板の軒先部裏面です。先端の掴みの部分は錆が進行しています。また、溝板の立ち上げ部も錆びています。



←左写真は、軒先水切りです。軒先水切りがもっとも腐食していました。  
軒先水切り>棧鼻>溝板掴み部>溝板立ち上げ部  
>キャップの順番で腐食していました。  
これらの腐食状況より、軒先部および心木上部から、浸水していると思われます。

→右写真は、棟部のキャップを剥がしたところです。軒先だけでなく、棟も心木に雨水浸入痕が見られます。

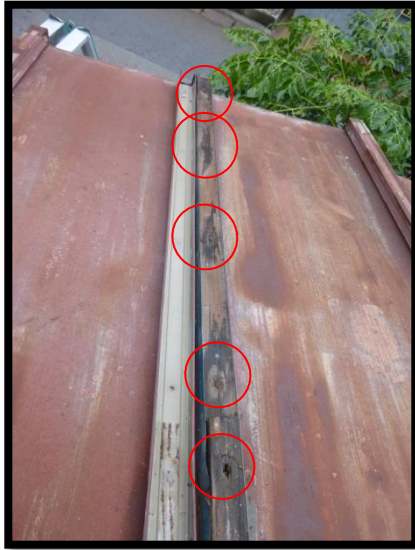




やまほん

余 レポート No.36

余 株式会社 神清



←左写真は、キャップを剥がしたところです。心木を留めている釘ごとに水痕が見られます。

→右写真は、心木の雨水浸入痕です。これは軒先部からの浸入ではなく、心木が途中から濡れています。キャップと溝板の立ち上がり部の間から浸入しています。



←左写真は、心木を抜いたところです。軒先の先端部は、釘が錆びてなくなっています。2本目からは錆びていますが、残っています。野地板は、ケラバ部も腐朽していました。心木の浸水痕は、軒先部の横と上部に見られました。



→右写真は、野地板を踏んでいるところです。表面の色は劣化状態ではありませんでしたが、踏むとフカフカで、野地板がひどく劣化していました。



**金属屋根・築30年では、屋根材・心木・下葺き材・野地板・釘と、すべての部位において腐食・腐朽が発生しており、全面的な屋根替えが必要でした。**